

# KiKiの広場

2011年 12月 1日

cafe NO.14  
KiKi



12月がやってきました。この時期、朝晩暗いうちに外に出ると、澄み切った空気の中、寒さと同時にはっとするほど月や星がきれいに見えます。ああ冬が来たんだなあと感じる瞬間です。

今年は日本にとって、想像を絶する悲しい出来事がありました。世界中でもいろんなことがありました。まだまだ辛く苦しい思いをされている方がたくさんおられます。1日も早く心穏やかに過ごせる日が訪れることを願い、来年が希望の年になるよう心から祈っています。

今年も大変お世話になりました。来年もどうぞよろしくお願いたします。



## 12月の予定

13日(火)	休館日
29日(木) ～3日(火)	年末年始休み



## 「今月のケーキ」・・・「ガトーショコラ」 300円



ちょっぴりクリスマスっぽいかなと。甘味を抑えた濃厚な口当たりで、温かいケーキとしてもいただけます。

「バークドチーズケーキ」も好評です！引き続きお楽しみください。

## 今月のお気に入り・・・「クリスマスの本」

～「クリスマス人形のわが家」「急行「北極号」」「山のクリスマス」「とびきりすてきなクリスマス」などなど～



思いっきり大人になった今でも、この季節になるとワクワクソワソワしてきます。クリスマスには、楽しさ 美しさ 夢がいっぱい など、ステキな本がたくさんあります。

←この絵本は、たまらなくかわいくて胸がキュンとなる、とっても優しいお話です。

まだ出会っていない、とっておきの絵本に、この冬もしかしたら出会えるかもしれませんね。



## 今月の本棚・・・「冬の本」

～「つるにようぼう」「ゆきのひ」「月夜のみみずく」「ゆきのひのうさこちゃん」「ゆきだるま」などなど～

みなさんの冬のイメージは、どんなものでしょうか？しんと降り積もる雪・澄んだ空気・いつもより輝いて見える夜空の星 etc. 絵本の中の冬もさまざまです。暖かいほっとするような冬や、はあ～っと白い息が見えてきそうな冷たい冬・・・いろいろな冬を楽しんでみてください。



## ほっとスレイク

竹馬の友その3・・・夏に出会った竹馬の友のみなさんですが、寒くなっても毎週のように来てくださっています。最近、柿・さつまいも・大根などの食べ物の他、マンリョウ・センリョウなどのお花も、山で摘んできてくださいました。

そんなある日店内に入ると、どんと水槽が置いてあって、中には水と白い砂。近づくと何やらうごめくものが・・・。果たしてその正体は、「シマドジョウ」でした。体長6～7cmで、澄んだ川や池などのきれいな砂地の中に生息していて、鑑賞用としても人気があるそうです。なんと竹馬の友のNさんが私たちに見せる為わざわざ川の上流に行って、10匹も捕まえて来てくださったものでした。

水槽の側を通るたび、気配を感じたシマドジョウがシュルツ、シュルツと動いて、いつもカウンターの中は自分1人のはずなのに、なんかちょっぴりペットを飼っているような気分で、とっても可愛く思いました。



さすがに生き物をずっと KiKi で飼うわけにもいかず、今はNさんのお宅で健やかに飼われています。みなさん、いつもいろいろ楽しませてくださって、本当にありがとうございます。



# KiKiの広場

2012年 1月 5日

cafe NO.15  
KiKi



## あけましておめでとうございます！

辰年生まれには、世界三大女傑（ジャンヌ・ダルク ナイチンゲール ヘレン・ケラー）がいるそうです。向上心を持って自分の信念を貫いた女性たちですね。みんながみんな彼女たちのように、困難にくじけず強く生きることはなかなか難しいと思いますが、せめて今年は、昇り竜のように少しでも上を向いて笑うことがいっぱいある年になるといいなあと思います。

みなさま、今年もどうぞよろしくお願ひいたします。



1月の予定	
10日(火)	休館日



「今月のケーキ」・・・「かぼちゃの焼きケーキ」 300円



バターをたっぷり使用した生地にかぼちゃを練り込み、かぼちゃスライスと甘く煮た小豆をトッピングした素朴なケーキです。

温かいケーキとしても美味しくいただけます。



### 今月のお気に入り・・・「冬の本 その2」

～「ね、うし、とら・・・十二支のはなし」「雪の写真家 ベントレー」「きらきら」「なつのゆきだるま」などなど～

冬は子どもたちにとって、クリスマス・お正月と嬉しい行事が続きますね。そしてもう一つ、ワクワクするのが、雪です。その雪の結晶の写真撮影に努力したのが、外国ではベントレー、日本では吉田六郎さんです。「きらきら」は、その美しい写真と谷川俊太郎さんのやさしい言葉が響きあって、ひとつとして同じものがない雪の結晶の世界へ、私たちを導いてくれる素敵なお本です。「なつのゆきだるま」は「どろんこハリー」のジーン・ジオンと奥さんのグレアムコンビの作品です。あたたかく優しい気持ちになれます。



### 今月の本棚・・・「りゅうが出てくる本」

～「龍」「竜のはなし」「山をはこんだ九ひきの竜」「でんでら竜がでてきたよ」「騎士とドラゴン」などなど～

「辰」にちなんで、いろいろな「りゅう」を連れてきました。干支の中で唯一の架空動物とはいえ、神話や民話に多く登場し、神の化身であったり、神や仙人の乗り物であったりと、昔の人々にとっては想像上の生き物ではなかったのかもしれませんが、ちなみに、日本列島の形って、龍のように見えますね。



「龍」は気の弱い龍が、田島征三さんの迫力のある絵で描かれている楽しい絵本です。「竜のはなし」は、「このおはなしはおとぎばなしではありません」という前書きから始まる、宮沢賢治の強い思いが伝わるお話です。他の生き物の為に自分を犠牲にする竜、ジーンと胸に響きます。「でんでら竜がでてくるよ」は、長崎の童歌から生まれた絵本です。ながさき言葉の楽しさと物語の面白さ、そして、木版画のモノクロの挿絵がすばらしくて、13章からなっていますが、あっという間に読んでしまいます。



### ミニ ほっとブレイク

クリスマスの日の朝、オープン前から「いいですか？」と入って来られた若いカップル。2人で楽しそうにおしゃべりされること2時間。時計を見て、「あっ、もうこんな時間！」とお昼を過ぎてから帰られました。

時を忘れてお互いの顔を見ながら夢中で話すって・・・、そう言えば昔、そんなことあったなああと・・・しばし、遠い過去にタイムスリップ。ちょっぴりキュン♥となるクリスマスの出来事でした。

(私たちおばちゃん同士では、日常茶飯事ですけれどね。^^;)





# KiKiの広場

2012年 2月 1日

cafe NO.16  
KiKi



子どもたちにとって、先週の雪はさぞ嬉しかったことでしょう。けれども、今各地で雪による被害が出ていることを考えると、これ以上降らないでほしいと祈らざるを得ません。今年は4年に一度の閏年(うるうどし)、夏季オリンピックの年でもあります。2月29日は閏日(うるうび)と言い、英語では、leap day(跳躍の日)と言うそうです。毎年同じ日の曜日が1つずつずれていくのに対し、閏年は閏日以降2つずれてしまう、つまり曜日を飛び越えてしまうことから、そう呼ばれるようになったそうです。「跳躍」という言葉のように、心も身体も弾んで、みんなでいろいろな何かを飛び越え、乗り越えられるといいなあと思います。



## 2月の予定

14日(火) 休館日



## 「今月のケーキ」・・・「チョコレートケーキ」 300円



バレンタインっぽいかなとチョイスしました。柔らかく焼き上げたココアスポンジに、カカオ分62%のチョコレートクリームをはさんだ、表面にツヤのあるチョコレートケーキです。



## 今月のお気に入り・・・「鬼が出てくる本」

～「鬼のうで」「すみ鬼にけた」「鬼ぞろぞろ」「鬼の首引き」「かえるをのんだととさん」「鬼の橋」などなど～

節分にちなんで、鬼が出てくる本を集めてみました。「龍」と同様、「鬼」は昔話になくてはならない存在です。「鬼のうで」は、「御伽草子」や「太平記」でおなじみの切られた腕を取り戻しにくる鬼の話を、赤羽末吉さんが長年にわたり想をあたたため、画魂をこめて創作、絵本化されたものだそうです。

「鬼の橋」は絵本ではなく児童書です。鬼や物の怪と人間が混在していた平安中期に、冥界と現世を行き来するお話ですが、ストーリーはもちろん登場人物がとても魅力的で、子どもだけでなく大人にもぜひ読んでもらいたい、読み応えのある心に残る一冊です。



## 今月の本棚・・・「マーガレット・ワイズ・ブラウンシリーズ」

～「うさぎのおうち」「おやすみなさいおつきさま」「おぎょうぎのよいペンギンくん」「いぬおこわり」などなど～

42歳という若さで亡くなった、マーガレット・ワイズ・ブラウン。生前100冊以上の作品を残していますが、死後も数多くの作品が発表されています。「うさぎのおうち」の絵は、仲の良かった「しろいうさぎとくろいうさぎ」の作者ガス・ウィリアムズ。リズムがあって詩のような文章と、思わず触りたくなるような毛並につぶらな瞳のうさぎがかわいくて、抱きしめたくなるような本です。



「いぬおこわり」は、ユーモアたっぷりの、楽しくてほほえましい犬のお話です。絵は「ひとまねござる」のH・A・レイで、動物たちが生き生きと描かれています。



## ほっとフレイク

隣のイベントホールで、週3回1時間ほどジャザサイズがあります。若い方から年配の方まで幅広い年齢層のみなさんがたくさん来られていて、毎回ドア越しに、そのパワフルな雰囲気伝わってきます。

ある日、80歳を超えと言われる男性が2人来られて、にぎやかな様子に「こりゃいいねえ、元気がもらえそうじゃね。見学させてもらおうか。」と言われました。時々、外を歩いている人が何をやっているんだろうと、ガラス越しにのぞいておられることもあるし、まあいいかなと思っていると、1人の方が、ドアを開けて中をのぞいてみられました。「こりゃちょっと見学はいけんじゃろう。なんか水着みたいな人がいっぱいおるよ。」それを聞いて、もう1人の方も中をのぞかれました。「ほんとじゃ、こりゃいけん。ここで音楽だけ聞かせてもらおう。」・・・そ、それがいいかも・・・(^\_^;)





# KiKiの広場

2012年 3月 1日

cafe NO.17  
KiKi



あの日からもうすぐ1年が経とうとしています。日本だけでなく世界中の人々の心が引き裂かれるような3月11日の出来事は、これからも決して忘れることはできません。被災された方や現場で作業されている方たちへ思いをよせながら、自分にできることを精一杯考え、日々を大切に過ごしていきたいと思います。

今 KiKi の中は、待ち遠しい春でいっぱいです。何種類もの水仙・ボケ・枝垂れ黄梅・紅梅・アネモネ・椿・ネコヤナギなどなど。いつものお花の K さんや竹馬の友の Y さんが、思いと一緒に届けてくださったものです。暖かく穏やかな春が、早く来るといいですね。

3月の予定	
13日(火)	休館日



「今月のケーキ」・・・「ミルクレーフ」 300円



幾重にも重ねたクレープ生地のあいだにクリームをはさみ、天面にナパージュを塗って仕上げた、定番人気のミルクレープです。



今月のお気に入り・・・「巣立ち・旅立ちの絵本」

～ 「こすずめのほうけん」「ラキとらいおん」「ぜつぼうの濁点」「たったひとつの」などなど ～



3月は卒園や卒業など、旅立ちや別れの月でもありますね。わが子が、赤ちゃんから子どもへ、子どもから青年へと、少しずつ自分の手から離れていくのを感じるのは、嬉しさと同時にたまらない寂しさがあります。大きな愛に見守られながら自分の足で一步踏み出す、そんな絵本を選んでみました。



「ぜつぼうの濁点」は、ひらがなの国で長年「ぜつぼう」に仕えた「濁点」が、主を絶望させていたのは自分の存在だと気づき、別れを告げて新しいひらがなの主を求めて旅にでるといってお話です。衝撃的な題名ですが、いろいろなひらがなから毛嫌いされながら行き着いたすてきな結末と、日本語っていいなと思える絵本です。「たったひとつの」は、5歳から高校まで宇宙で過ごした版画家江崎満さんの作品です。ずっと1人ぼっちで暗い穴の中にいたオオサンショウウオが、シアワセを求めいろいろな生き物に出会いながら、「或ることのすばらしさ」に気づくお話ですが、宇宙を感じるような美しい版画に引き込まれます。テーマは、「家を出る息子へ送ったメッセージ」だそうです。



今月の本棚・・・「シャーロット・ゾロトウの世界」

～ 「はるになったら」「うさぎさんてつだってほしいの」「まってね」「いまがたのしいもん」などなど ～



ニューヨーク郊外のハドソンの森の中で育ち、草木や花に囲まれた美しい自然の中で暮らしていたというシャーロット・ゾロトウ。優しさにあふれるゾロトウのお話の中に出てくる子どもたちは、ちょっと(?)昔の自分です。ささいなことや小さな自然に心ときめかしていた、懐かしくてちょっぴり切ない・・・そんな思いがよみがえってきます。「まってね」「いまがたのしいもん」は、お母さんにはたまらない本ではないでしょうか? 「生まれてきてくれてありがとう。」と、どんなに大きくなったわが子でも思わず抱きしめたくくなります。



ほっとフレイク

将棋ボーイ再び・・・6年生の将棋ボーイ H さんと T くんが、2人そろってきました。「中学生になったら将棋教室もう来ないの?」と聞くと、「いや、来るでしょ。」と同時に答えた2人。「でも部活とかあるでしょ?」と言うと、「いやあ、あっても来れる時は来ますよ。」と H くん。T くんが「将棋はやめんと思う。」と言うと、H くんが「いや、将棋はやめるとかやめんとか、そういう問題じゃないやろ。ずっとやるもんやろ」と。指導をされている先生方にお話を聞くと、子どもたち一人ひとりに対する思いや願いをすごく感じます。ただ、この先ずっと続ける人もいれば、しばらくお休みする人、大人になってまた将棋の勉強が楽しくなる人、将棋との関わり方は人それぞれだと。いいですね。こんなに早くから、ずっとやりたいと思えるものに出会えるなんて。





# KiKiの広場

2012年 4月 1日

cafe NO.18  
KiKi



春一番だけでなく、春二番・春三番か（い、意味が(^\_^;)）というくらい強い風がよく吹いた3月でしたが、ようやく例年より遅い桜もちらほら見られるようになり、待ち遠しかった春がやっと来ました。

「ヒストリア宇部」の『コミュニティ・カレッジ（略称コミカレ）』も、4月から第3期がスタートします。講座数も増え、今年度は年間通しての講座となっています。心と身体の健康にいいコミカレを、どうぞお楽しみください。



「今月のケーキ」・・・「シューバナナケーキ」 300円



## 4月の予定

10日(火)

休館日



バナナとカスタードクリームをシュー皮ではさみ、アクセントにほんのり苦いチョコレートを利かせた、年代を問わず楽しめる味わいです。



## 今月のお気に入り・・・「春に読みたい絵本」

～ 「わたしのワンピース」「おやゆびひめ」「おやゆびちーちゃん」「ぐいとぐらとくるいくら」「たんぽぽ」などなど ～



40年以上も前に出版されている「わたしのワンピース」。懐かし～と思われる方も多いのではないでしょうか？ずっと愛され続けているのは、わくわくする楽しいお話と素朴で優しいタッチの絵が、子どもの心をとらえて離さないのだと思います。春というと真っ先に思い浮かぶ絵本です。

また春の花のチューリップにそっくりな花から生まれてきたおやゆびひめ。いろいろな出版社からたくさんの絵本が出ていますが、今回その中から4冊紹介します。作者アンデルセンの母国デンマークの画家スペン・オートー、スウェーデンの絵本作家エルサ・ベスコフ、そして堀内誠一さんが描いた「おやゆびちーちゃん」、3つともヨーロッパの香りにあふれて、原作の雰囲気を実に忠実に伝えていると思います。そして、いわさきちひろさん。美しく優しい絵に引き込まれます。訳も含めいろいろと見比べてみるのも面白いですよ。



## 今月の本棚・・・「林明子の世界」

～ 「はじめてのおつかい」「とんことり」「こんとあき」「おつきさまこんばんは」「おふろだいすき」などなど ～



あるインタビューで「抱きしめたくなる子どもを描きたい。」と言われていた林明子さん。本当に林さんの絵はどこまでも優しくあたたかく、子どもの小さな胸のハラハラもドキドキもワクワクも、そのまま伝わってきます。またストーリーとは関係のない隠し絵でも有名で、1つの作品の中だけでなく、いろいろな絵本の中に共通した人物やものたちが出てきます。「はじめてのおつかい」の主人公みいちゃんちの郵便受けの名前が「尾藤三」と書いてありますが、何て読むか知っていますか？「おとうさん」と読むそうです。お父さんが全く登場していないので、ここで参加しているとのこと。ほんとに楽しいですね。

ちなみに「KiKi」の生みの親の角野栄子さんの「魔女の宅急便」の挿絵も林明子さんです。



## ほっとフレイク

Rちゃんという1歳半になる女の子とお母さんがご来店。自分でフォークを使ってケーキを食べながら「おいしいね！」とこちらを見てにっこり。あまりにもしっかりしてお話も上手なので驚いていると、お兄ちゃんが3人おられるとのこと。なるほどたくましくなるはずですね。食べた後は、隣のイベントホールをお散歩。私もおいでと呼ばれ手をつないでもらって（笑）ひとまわりしました。



クリームが指先につくと、さりげなくおしぼりできれいにふき取る姿は、とても1歳半とは思えない仕草でした。3歳まで「あー」とか「うー」とかしかしゃべらなかつたような気がする一人っ子の我が息子に比べると、いまだにRちゃんが1歳半だとは信じ難い思いです。環境ってすごいですね。（環境だけじゃないか。）(^\_^;)



# KiKiの広場

2012年 5月 1日

cafe NO.19  
KiKi



目に飛び込んでくる緑が、まぶしく美しく輝いて見える季節がやってきました。気持ちのいい風が吹く中オープンテラスの芝生の上に、新しくおかれたベンチに座って味わうコーヒーもまた格別です。

それにしても今年は、春の嵐がすごかったですね。おかげで、KiKiのメニューボードが何度も倒れ、とうとう壊れてしまいました。1年と7か月、KiKiの顔としてお世話になりましたが、お疲れさまとお礼を言ってお別れし、新しいメニューボードと選手交代しました。なかなかかわいくてユニークなニューフェイスです。どうぞよろしくお祈りします。



また、夏季限定の新メニューもできました。「黒豆炭酸ジュース」です。黒豆ジュースと「ペリエ(炭酸水)」をドッキング。シュワッとした炭酸が爽やかな、夏らしい飲み物です。おいしいですよ。



## 5月の予定

8日(火)

休館日



## 「今月のケーキ」…「ストロベリーケーキ」 300円



しっとり感のあるスポンジに、甘さを控えたいちごクリームをはさみ、ダイスカットのいちご果肉をトッピング。新鮮ないちごと、たっぷりの生クリームをお楽しみください。



## 今月のお気に入り…「ねこが出てくる絵本」

～「いたずらこねこ」「100まんびきのねこ」「タンゲくん」「黒ねこのおきゃくさま」「ちいさなねこ」などなど～



絵本の主人公には、さまざまかわいくてユニークな動物たちが出てきますね。今回は「ねこ」が出てくる絵本を選んでみました。よく「あなたはネコ派? イヌ派?」と聞かれますね。私はどちらかというとならぬが、絵本の中の「ねこ」たちは、なんてかわいいんでしょうかと思えます。「いたずらこねこ」は、始めから終わりまで小さな庭の同じ場面での出来事が描かれています。好奇心旺盛ないたずらこねこが、生まれて初めて出会ったかめにどぎまぎしながら近づいて行く様子が楽しくて、最後はどうなるんだろうとドキドキします。ページをパラパラめくるとまるで動画のように見えるのも面白いですよ。

たくさんのかわいくてにくめないねこたちに出会ってくださいね。



## 今月の本棚…「赤羽末吉の世界」

～「スーホの白い馬」「ぞら、にげろ」「かさじぞう」「ももたろう」「かちかちやま」「だいくとおにろく」などなど～





小学校の教科書に載っている「スーホの白い馬」で有名な赤羽末吉さんは、50歳で絵本デビューされたそうです。「ぞら、にげろ」は、道を急ぐ旅人が野良犬に追っかけられると、一番驚いたのは旅人ではなく、旅人の着物の模様の小鳥たち。着物から一目散に逃げ出して、かくして旅人と鳥たちの追いかっけっこが始まります。赤羽さんが「絵を読んでください。」と言われるように、ほとんど文字なしの絵本は、春夏秋冬を歌舞伎調の絢爛豪華な背景で描かれており、粋でおしゃれな絵本です。黒子もしっかり出てきて、いつもとちょっと違った絵本です。



## ほっとフレイク

時々隣のイベントホールでカラオケの発表会があり、多い時は50人以上の方が歌われます。先日も歌い終わった男性の方が来られて、次は県西部の代表目指して頑張ってお練習すると言われていました。(すご〜い!)

切切切切たちはきれいにドレスアップされていて、みなさんとても若々しくてお元気です。好きなことを楽しむとともに、やはり大きな声をお腹から出すというのは、心にも身体にもいいのでしょうね。

ただ1つ  KiKiとイベントホールの堺はドア1枚なので、大音量の音楽と歌がとてもよく聞こえてきます。カラオケがあった日は、寝るまで頭の中を「演歌」がぐるぐるまわっています。(^\_^;) 



# KiKiの広場

2012年 6月 1日

cafe NO.20  
KiKi



木陰が嬉しい季節になりましたが、その木々の中では鳥たちがとってもにぎやかです。この春はメジロの姿を殆ど見ることがなく、何かあったのかと心配しました。ただ他の鳥たちにとって、今は恋の季節なのでしょう。ウグイス・ハクセキレイ・スズメ・シジュウカラ・ヒヨ・ヤマ（キジ）バトなどが、元気いっぱい鳴いています。うまく相性のいい相手を見つけて、楽しい家庭を築いてほしいですね。（笑）

また、先月登場した夏季限定の新メニュー「黒豆炭酸ジュース」が好評です。なので、夏季限定ではなくメニューの中に入れることになりました。どうぞ引き続き、爽やかな味をお楽しみください。

## 6月の予定

1 2 日 (火)

休館日



## 「今月のケーキ」…「ダブルベリーパイ」 300円



ブルーベリーとクランベリーの甘酸っぱさと、パイ生地、クッキー生地の香ばしさを、アーモンドクリームのコクが調和したおすすめの一品です。



## 今月のお気に入り…「雨の日は楽しくなる絵本」

～「雨、あめ」「ふるやのもり」「ピーターのおかみ」「もくもくやかん」「おじさんのかさ」などなど～



小学生の頃、雨降りの帰り道わざと傘をささずに濡れて帰るのが好きでした。友だちと水たまりの中に入って長靴をぐちょぐちょに濡らしては、よく叱られていました。「雨、あめ」は、そんな気持ちがよみがえってくるような、雨の日の楽しさ美しさが生き生きと描かれている言葉のない絵本です。

「ふるやのもり」は、おじいさんとおばあさんの家に忍び込んだ馬どろぼうとおおかみが、おじいさんとおばあさんの「この世で一番怖いものは『ふるやのもり』だ。」という会話に震え上がって勘違いの暴走を始める、とっても愉快な昔話です。さて、『ふるやのもり』とは、いったい？猿の顔が赤いわけもなぜかわかっちゃいます。

## 今月の本棚…「片山健の世界」

～「きつねのテスト」「とんとんとんとん」「むかしむかし」「もいのおぼけ」「わたしがおひさまだったら」などなど～

決してかわいくなくて、でも迫力があって味わい深く憎めない片山健さんの絵とお話、「タンゲくん」がお気に入りの KiKi スタッフ Y ちゃんのリクエストです。「きつねのテスト」は、きつねが女の子に二択問題を出すのですが、いったいなんなんだというような正解が待っています。奇想天外なお話に片山さんの絵がみごとにマッチして、最後はどうなるんだろうとぐいぐい惹きこまれます。「とんとん とんとん」は、究極の子ども像かもしれません。長男との生活から生まれたそうですが、この頃の子どもが持つはちゃめちゃなパワー・・・特に新米ママにとっては、思わずうなづいてしまう絵本ではないでしょうか。

谷川俊太郎さんとの初めての共作絵本「むかしむかし」は、美しく力強い詩と絵に、遠い記憶を呼び起こされるような深さを感じました。どちらかと言うと大人に読んでほしい本です。



## ほっとフライク

家族と共にやって来たIくんという2～3歳くらいの男の子、私を見て突然、「お母さんなの？」と聞きました。間違いではないので、「そうよ。」と答えると、それから私に話しかける時、「ねえ、お母さん」と言われました。「ギャロップ!!」という絵が動くしかけ絵本を見せると、とても気に入ったようで、テーブル席から1人カウンター席にやってきて、私に見せながら読みました。途中からなぜか私の呼び名は「ママさん」に変わりました。「ママさん、次の本は？」と聞かれ、「次の本はまだ置いてないのよ。」と言うと、「じゃ、今度買っちゃってね。」とお願いされました。なんともかわいらしいIくんの言い方に、その場にいた人みんな、大爆笑でした。(\*^\_^\*)